

昭和32年刊行

芦屋市史

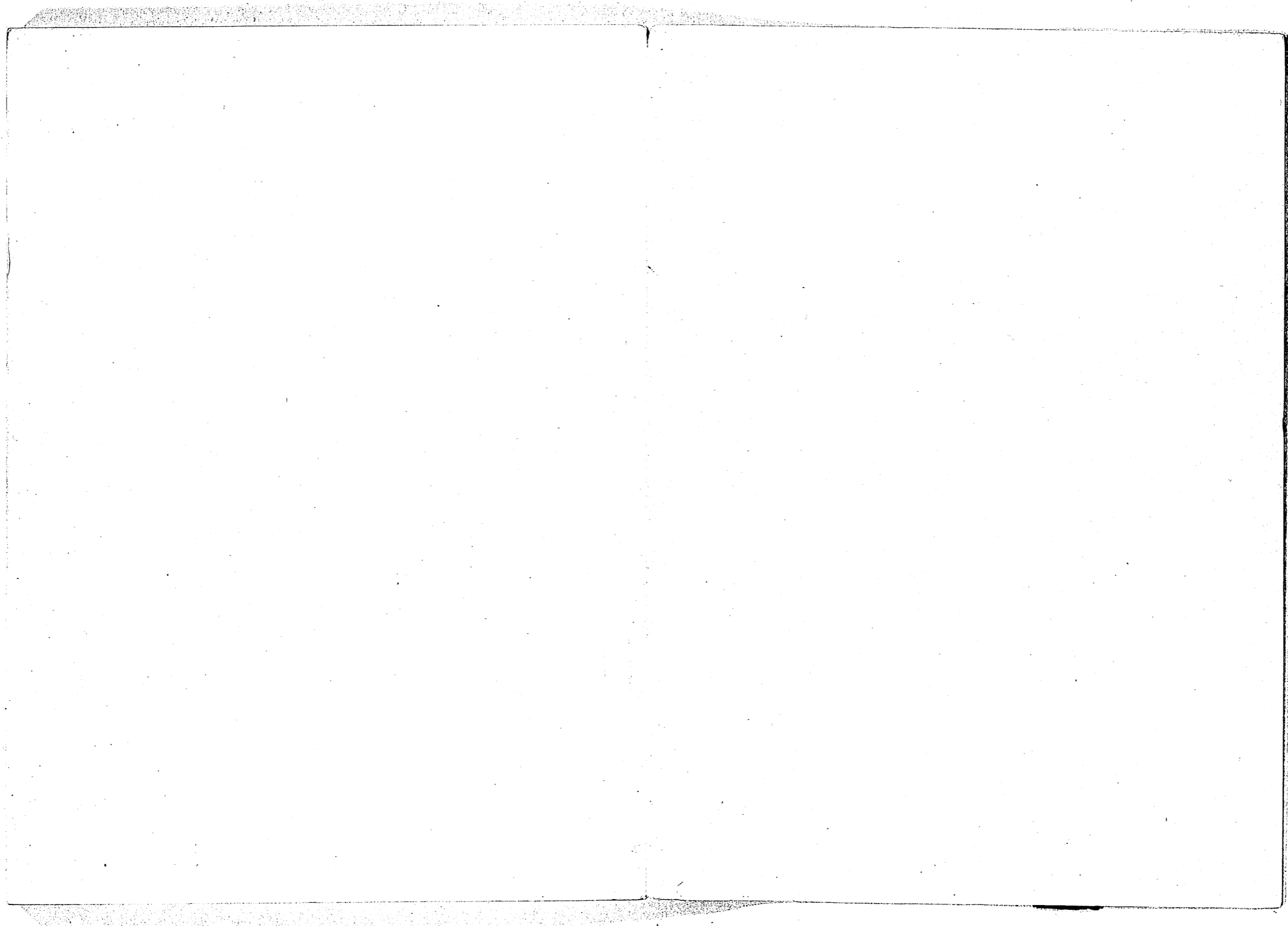
資料編第二

芦屋市史

史料編第二

兵庫県芦屋市教育委員会

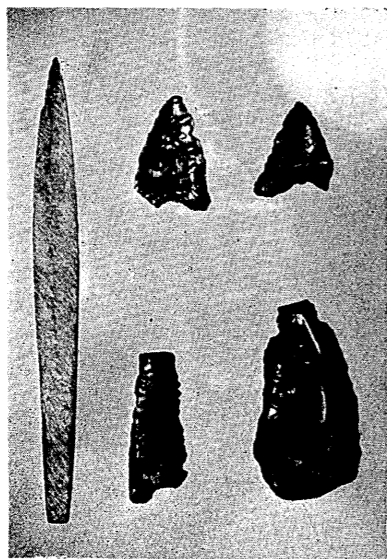
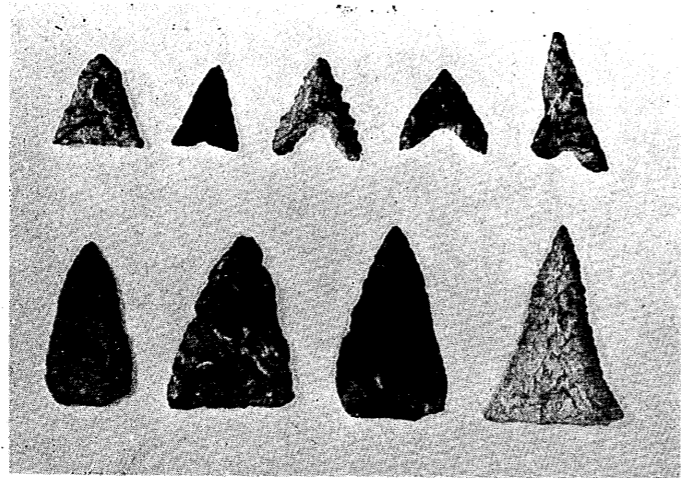




芦屋市史

史料編第二

兵庫県芦屋市教育委員会



図版第1 芦屋市内出土石器

上図 岩ヶ平出土打製石鏃(岩間町 朝比奈貞雄氏蔵)
 出土地 上段(左より)藤左衛門, 松呂山, 二本松, 岩宮, 長畔
 下段(左より)長畔, 西谷, 西谷, 深谷

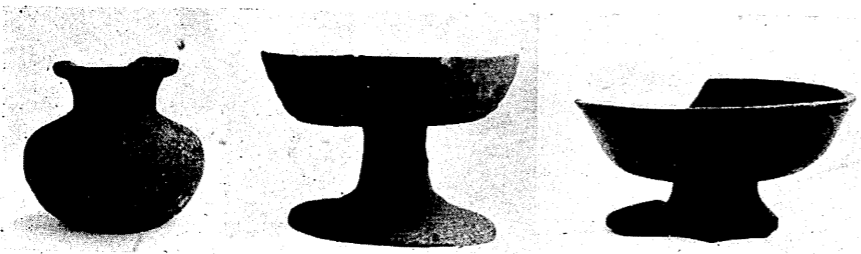
下左図 左端 笠ヶ塚南出土磨製石槍
 上段(左より)岩ヶ平出土打製石鏃(黒耀石)岩ヶ平小学校北出土打製石鏃(黒耀石)
 下段(左より)笠ヶ塚南出土打製石鏃残片(黒耀石) 笠ヶ塚発見打製石匙

下右図 朝日ヶ丘出土磨製石斧(以上6点 親王塚町 吉岡昭氏採集, 吉岡俊一氏蔵)



壺

琺



罎

高坏

高坏



坏

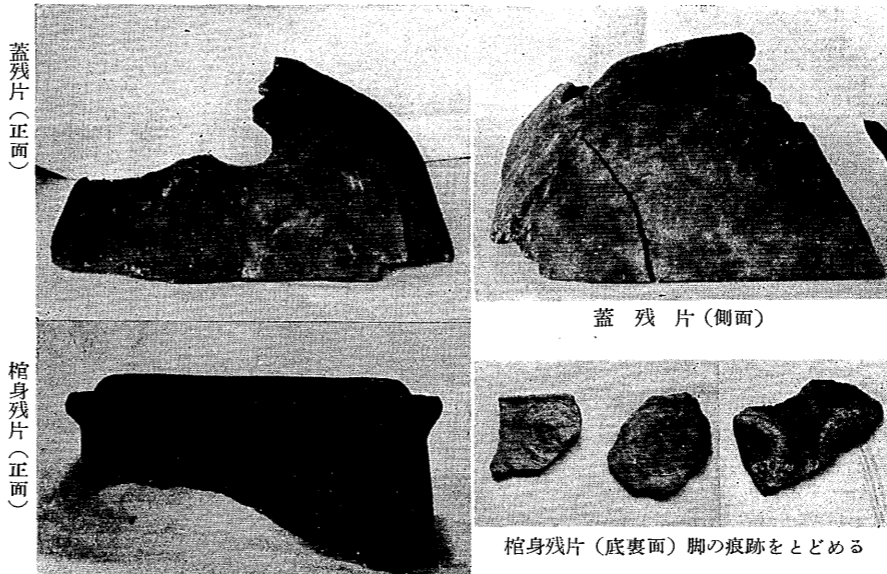
坏

坏

高坏(脚を欠く)

蓋坏

図版第4 岩園町岩ヶ平古墳出土須恵器(岩園町 朝比奈貞雄氏蔵)(第5図測図参照)



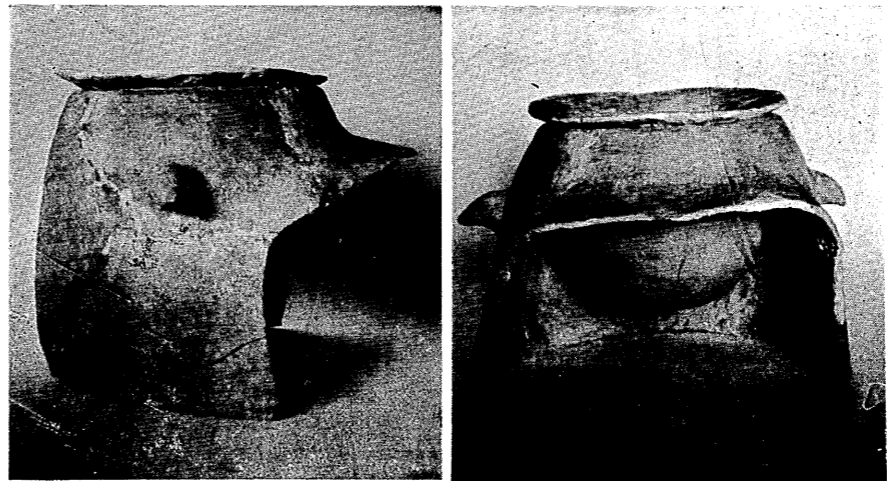
蓋残片(正面)

蓋残片(側面)

棺身残片(正面)

棺身残片(底裏面)脚の痕跡をとどめる

図版第2 岩園町八十塚東方出土陶棺(須恵器質)
(芦屋市教育委員会保管)(第4図測図参照)



図版第3 山芦屋町城山南麓古墳出土土器形土器(土師質)
(京都大学考古学研究室蔵)(概を欠く)

凡例

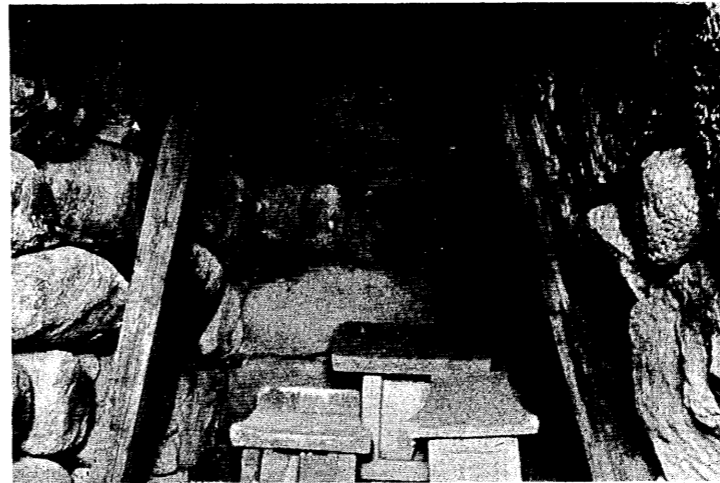
一、本書は、芦屋市史本編および史料編第一に収録することのできなかった史料のなから、適当なものを選んで編修したものである。

一、本書では、まず、史料編第一において割愛した考古学資料編および第三編近代編を新たに設けた。考古学資料編では、各種の遺物・遺跡を写真および実測図で示し、写真は巻頭に、実測図は本文の最初に、それぞれ収めた。近代編では、多数の史料のなから、明治十七年の芦屋・三条・津知村誌と、明治二十二年精道村が発足した年の議事録とを掲げるとどめた。近代の統計類なども多く載せる予定であったが、すべて割愛した。それらについては毎年発行されている芦屋市勢要覧などが役立つはずである。

一、第一編古代中世編および第二編近世編は、史料編第一のそれぞれに採録できなかった史料を追加した。古代中世編の追加は「5 室町時代」の史料だけで、これは永島福太郎氏をわずらわして東京大学史料編纂所影写本に拠ったものである。ここに記して面倒な仕事を快く引き受けて下さった氏に深く感謝する。近世編では、先に分類した十項目のうち、若干の項目に史料を追加したほか、新たに「11 江戸時代の地誌」として代表的な地誌を抜粋した。その記事内容には、誤りや疑わしいものがないではないが、それらについては、芦屋市史本編ならびに史料編を参照活用していただきたい。

一、史料の校訂・編集の要領は、すべて史料編第一の凡例に記したところを踏襲しているので、重ねてここには記さない。

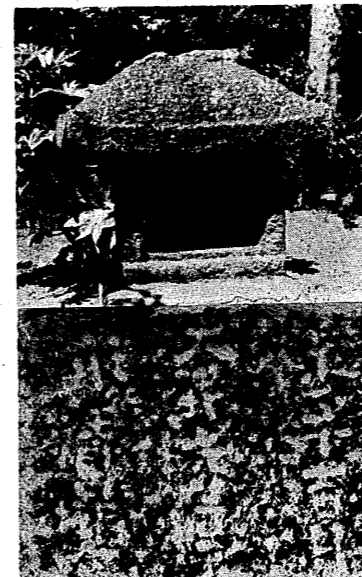
一、最後に、市史編集の間、史料の御所蔵者にはなにかと御迷惑をおかけしたが、つねにわれわれの無理な



図版第5 芦屋神社境内横穴式石室古墳玄室（第2図測図参照）
（石祠は近時水神社祠をここに移し奉祀したもの）



図版第6 芦屋神社境内横穴式石室古墳
（羨道部より玄室をのぞむ）



図版第7 津知町日吉神社境内石籠
および屋根正面にある銘文拓本
（永正十……の紀年銘がある）
総高58cm 屋根高20cm 巾51cm

願いを快くかなえて下さったことを有難く感謝している。また、市史の完成には実に多くの方々の御協力を賜わっている。いちいち御尊名を掲げて謝意を表すべきところ、失礼ながら略させて頂いたが、ここに厚く御礼申し上げる次第である。

昭和三十三年三月

芦屋市史編集委員

魚 澄 惣 五 郎

武 藤 誠

有 坂 隆 道

末 中 哲 夫

芦屋市史 史料編第二

目 次

考古学資料編

芦屋市内出土石器写真	図版第一
金津山古墳実測図	第一 図
芦屋神社境内横穴式石室古墳(玄室)写真	図版第五
同 右 (羨道部より玄室をのぞむ)写真	図版第六
同 右 石室実測図	第二 図
岩園町八十塚橋東方出土陶棺写真	図版第二
同 右 実測図	第三 図
同 右 復元図	第四 図
岩園町岩ヶ平古墳出土須恵器写真	図版第四
同 右 実測図	第五 図
山芦屋町城南南麓古墳出土甕形土器写真	図版第三
三条町古墳出土甕形土器実測図	第六 図

西山町伝法愿寺址塔心礎実測図……………第七図
津知町日吉神社境内在石籠および屋根正面にある銘文拓本写真……………図版第七

第一編 古代中世編

5 室町時代追加……………一
北野社家引付(一)……忠富王記(一)

第二編 近世編

1 藩政・村政一般追加……………二
御条目(二)

2 租 税追加……………七
打出村御年貢米取立算用帳(七)

6 水利・水論・水車追加……………六五
寛政十二年三条村畦垣内分水出入書(五)……文化八年東川老之井堰出入書(七〇)……中野・深

江・森・三条・津知村儀定証文(六)……天保十二年芦屋谷新川新水車一件書(七〇)……芦屋谷
新水車一件落口証文(七)

10 その他追加……………六
六甲山越道出入一件書(六)

11 江戸時代の地誌……………一〇四
福原齋鏡(一〇四)……撰陽群談(一〇四)……兵庫名所記(一〇七)……日本輿地通志(撰津志)(一〇〇)

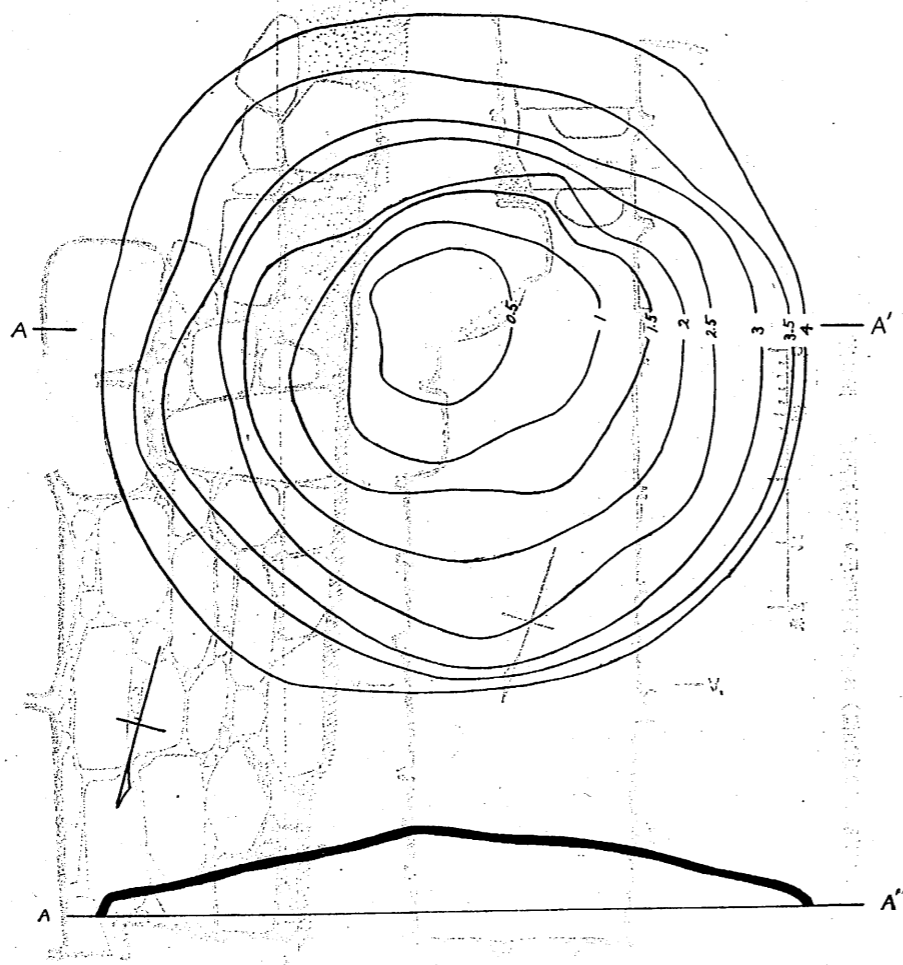
……撰津名所図会(一〇七)……播磨名所巡覧図絵(一一三)

第三編 近代編

1 明治十七年芦屋・三条・津知村誌……………一四
撰津国兔原郡芦屋村誌(一四)……撰津国兔原郡三条村誌(一三)……撰津国兔原郡津知村誌(一三)

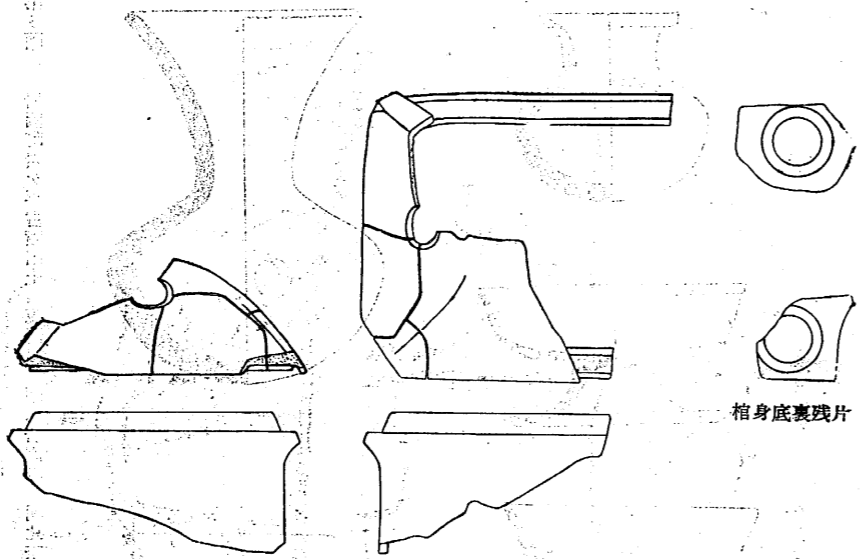
2 明治廿二年精道村議事録……………一六
明治廿二年六月十日十一日議事録(一六)……明治廿二年六月廿三―六日議事録(一四)……明治
廿二年八月議事録(一四)

あとがき



第1図 金津山古墳実測図（芦屋市史本編挿図第15図参照）

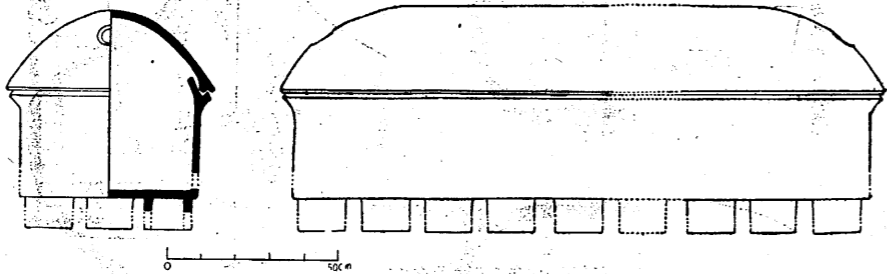
1. 墳頂の中心部には、正方形の石室が認められる。石室の辺長は約10メートルに達する。石室の壁は厚く、表面は粗面加工が施されている。石室の内部には、土製の埴輪が散見される。石室の周囲には、石室の基礎となる石垣が築かれている。石垣の厚さは約1メートルに達する。石垣の表面は、粗面加工が施されている。石垣の内部には、土製の埴輪が散見される。石垣の周囲には、土製の埴輪が散見される。石垣の周囲には、土製の埴輪が散見される。



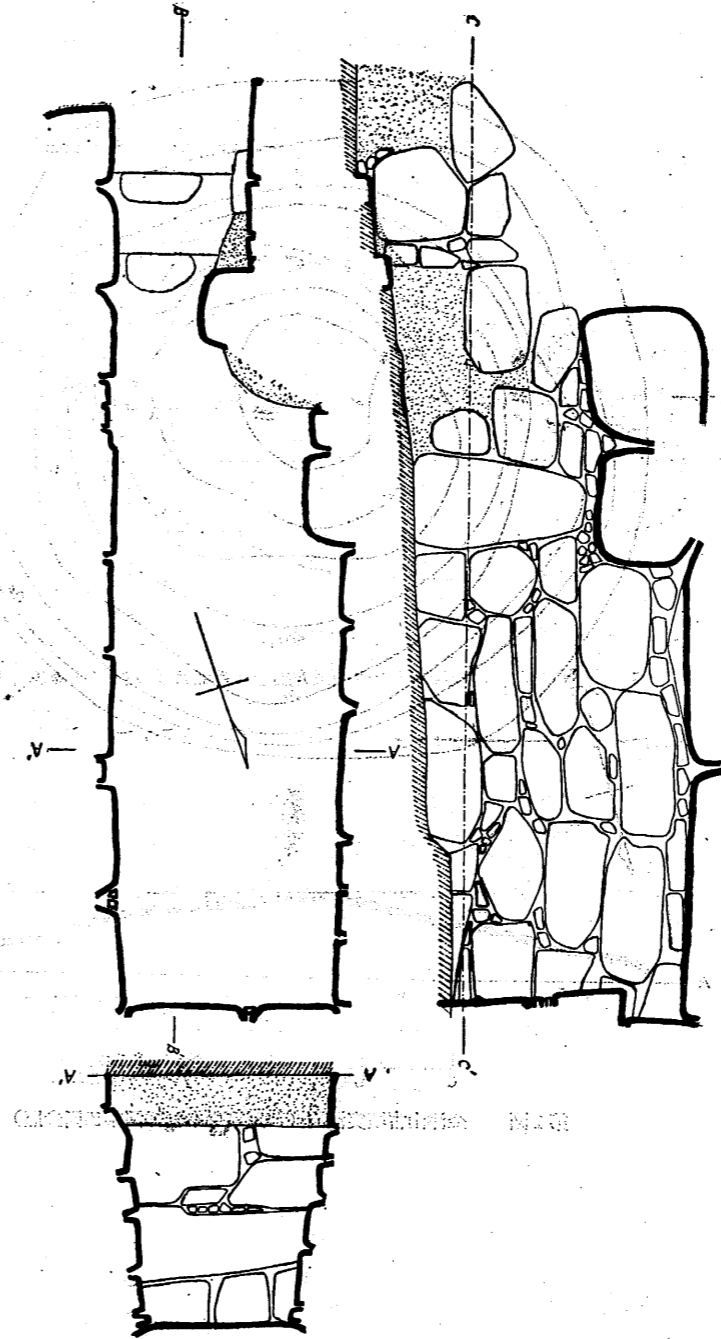
棺身底裏残片

0 50c.m

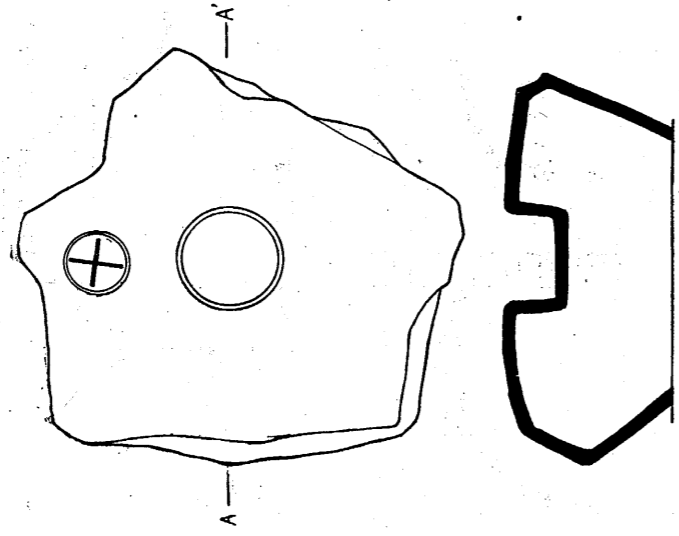
第3图 岩園町八十塚橋東方出土陶棺断片实测图(图版第2参照)



第4图 同上復一元图

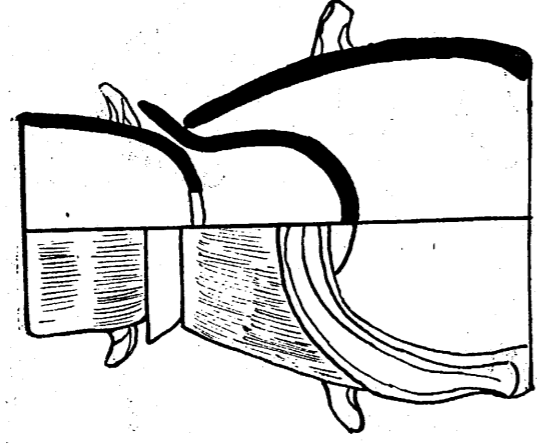


第2图 芦屋神社境内古墳石室实测图(图版第6、7参照)



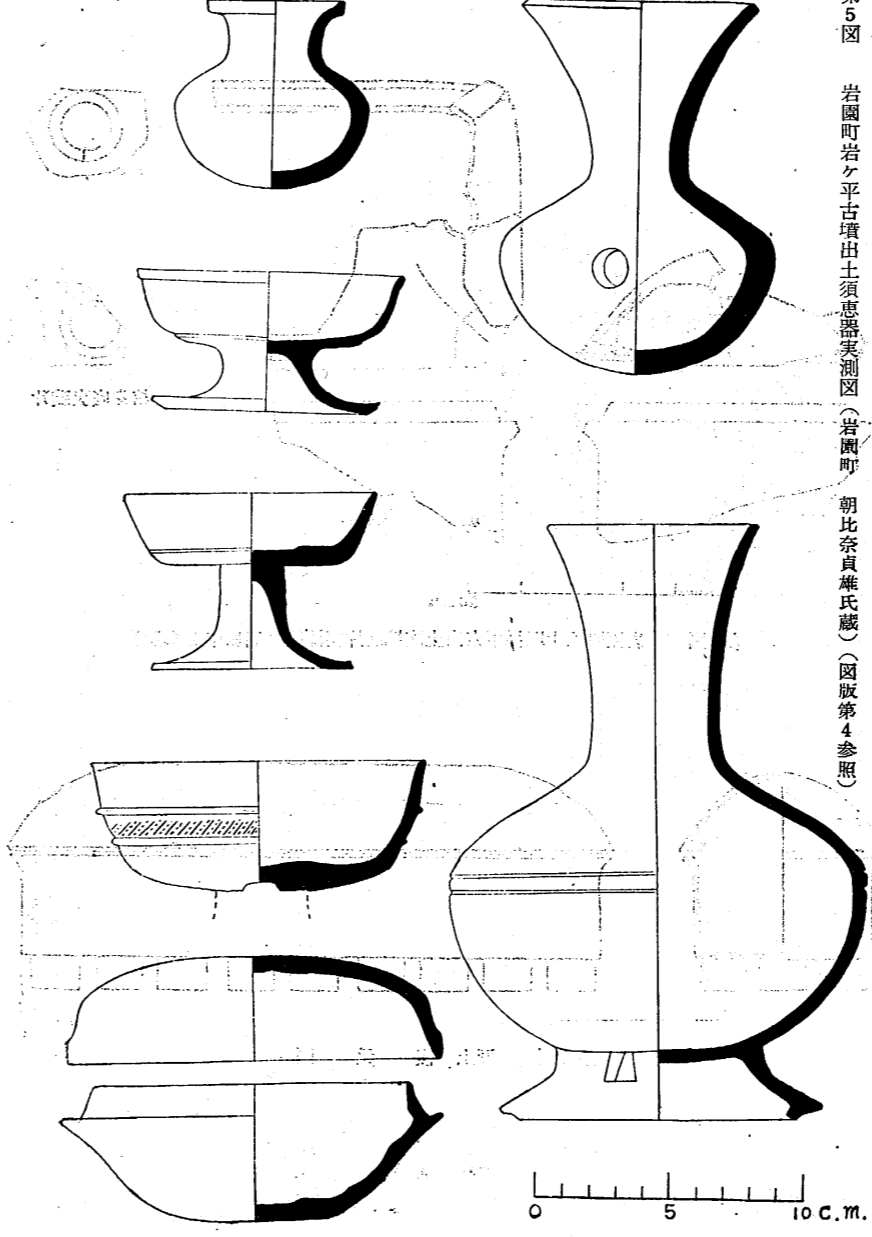
0 50 c.m.

第7图 西山町法恩寺址塔心礎瓦測図
(月岩町 巖丸吉左三門氏墓内所在)
(声屋市史本編圖版第13参照)



0 10 20 c.m.

第6图 三条町古墳出土甕形土器瓦測図
(声屋市史本編圖版第12参照)



第5图 岩園町岩ヶ平古墳出土須恵器瓦測図(岩園町 朝比奈貞雄氏蔵)(図版第4参照)